未来の子どもたちのために
桑原としひこ通信

討議資料　令和2年（2020年）1月6日発行　Vol.14

夢を実行する！

絵花シリーズ⑭
今回の絵はシクラメンを描きました。花言葉は「憧れ」です。

ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。昨年4月にはみなさんのおかげで2期目の市政に送り出させていただき誠にありがとうございました。今回の通信14号は一年間の活動をまとめました。その中でも、薄根地区に関する取り組みは、薄根地域ふるさと推進協議会小池会長を中心とした協議会の皆さん、そして沼田未来の会戸丸理事長を中心にした会の皆さん、更には薄根元気会湯本会長を中心としたスタッフの皆さん、そのほか多くの皆さんのおかげで実現する事ができました。また、利根沼田テクノアカデミーでの活動は、「沼田市を職人育成するまち」にするため、多くの方々と連携し事業を行ってきました。本年も3つの公約の実現に向け、何事にも初心を忘れず、精一杯努力して参りますので、本年もよろしくお願い致します。

沼田市議会議員　**桑　原　敏　彦**

公約１　「自然にこだわったまちづくり」

ホタルの里作り

石墨町の棚田「ホタルの里」に
薄根小児童飼育のカワニナ放流

薄根地域ふるさと創生推進協議会（小池大介会長）が進めるホタルの里づくりに協力する薄根小学校（佐藤広幸校長）の3～6年生200人が11月5日、ホタルのエサになる自分たちが育てたカワニナの放流を行った。

同協議会は薄根小の子どもにも協力してほしいと協力を依頼。3年生以上の児童が夏休み前から各クラスで飼育を行い5年生は飼育日記をつけてきた。児童は棚田に新設された木道を歩いて水路まで行きカワニナを放流した。

ふるさと創生で耕作放棄地や棚田が残る石墨町を「ホタルの里」にしようと計画。今年5月には東京等の棚田オーナー8組と棚田で田植えを行った。ホタル復活に棚田の活用でその一部をカワニナ養殖地として整備。

養殖に関しては地域住民と小学生に依頼、子どもたちには自然環境面に関心を持ってもらい地区の「ふるさと愛」向上に繋げようと計画し初めて実施した。児童は「来年ホタルがいっぱい飛ぶかナー」と願いを込めカワニナを放流していた。

週間利根　R元年11月10日掲載

石墨町の活性化を目指し、去年の春から薄根小学校の子どもたちがホタルの餌になるカワニナを育ててくれました。そのカワニナを11月5日に3年生～6年生、200人が石墨町の棚田（ホタルの里）に放流してくれました。当日はホタルの生育の話しや、自然に住む生き物の話しをしながら、子どもたちは喜んでいました。今年の夏、石墨町の棚田にホタルが飛び交うと思います。皆さんぜひ見に来てください。

石墨町の地域活性化

「石墨の棚田」で畦塗り体験
田んぼのオーナー「おもしろい」
＝薄根地域ふるさと創生推進協議会＝

薄根地域ふるさと創生推進協議会（小池大介会長）は4月28日、石墨町の「石墨の棚田」で田んぼのオーナーが田んぼの畦塗り体験した。

同協会の薄根地域活性化の方針の中でグリーンツーリズムを活用した事業として石墨区を起点として地域連携農業への取組。

田んぼのオーナーを募集、この日は東京や埼玉、県内から7家族22人（うち子ども9人）が参加した。

田んぼは耕作放棄地を会員が手を加え棚田に蘇らせた。

東京から来たオーナーは「田植えの経験は何度もあるが鍬を使っての畦作りは初めての経験。足場が悪く中腰で疲れたがおもしろかった」と話していた。また2家族は前日から農家に農泊した。

午後から参加者はジャガイモ植やリンゴの摘果の体験を行った。

小池会長は「耕作放棄地を活用した。今後は田植えや稲刈り、収穫体験を実施する。ホタルの里づくりにも取り組む」と抱負を述べた。

週間利根　R元年5月19日掲載

石墨町の活性化のため、棚田の耕作放棄地をお借りして、都会から8組の家族が棚田のオーナーになっていただきました。4月に畔塗り体験、5月には田植え体験、そして10月には稲刈り体験などを行いました。また、昨年11月より地域おこし協力隊（高津さん）が東京から沼田市に移住をしていただき、薄根地区活性化のために現在石墨町の事業をお手伝いしていただいています。

畦塗り体験

田植え体験

稲刈り体験

収穫祭

公約２　「子どもたちと高齢者が一緒にすごせるまちづくり」

薄根地区ウォーキングマップが完成

薄根元気会の皆さんが、2年前に作った薄根地区かるたを活用し、健康増進のため、そして薄根の魅力を知ってもらうため、ウォーキングマップを作成しました。マップは薄根地区全戸に配布する事ができ、それは薄根地区の企業の方々からのご協賛のおかげで実現する事ができました。スタッフ一同心から感謝申し上げます。今後はこのマップを活用し、薄根地区にたくさんの人が訪れるよう活動をしていきます。

薄根地区かるた読み札めぐる
「ウオーキングマップ」活用して

沼田市薄根地区の住民有志でつくる「薄根元気会」（湯本博会長）は同会が作った郷土かるた「薄根地区かるた」の読み札をもとにした「薄根地区かるためぐりウオーキングマップ」を製作した。

9月25日に同会の5人が沼田市役所を訪れ横山公一市長に手渡した。沼田市は市民の健康増進にウオーキング大会開催などスマートウエルネス事業を展開している。

地区内の読み札位置を記したマップや荘田城址・大イチョウコース約5・1㎞、小沢城址・道路元標コース約3・6㎞、沼田市運動公園周辺コース約3・6㎞、薄根の大クワ・風穴コース約4・8㎞の4コースのほか、かるた全44枚の絵札と読み札を収めた。また薄根地区の平安時代からの歴史を記した。

マップは薄根地区の全世帯に配布した。

湯本会長は「かるたのゆかりの場所を知ってもらい多くの人が訪れるきっかけになれば」と話している。

週間利根　R元年10月1日掲載

第2回薄根大クワ夏祭り

「薄根大クワ夏祭り」楽しむ
輪になり盆踊り、かるたゲーム

沼田市の薄根地区振興協議会（小池大介会長）は8月17日「薄根大クワ夏まつり」を薄根小学校で開催した。

昨年は住民有志によるNPO沼田未来の会が主催、今回「オール薄根」として振興協議会が主催。昨年33年ぶりに復活した盆踊りや薄根地区ジャンボかるたゲームが行われた。校庭にはヨーヨー釣りや輪投げ、模擬店が出店した。ステージではビンゴゲーム、上州真田武将隊舞踏が行われた。

午後5時のオープニングセレモニーでは提灯の点灯式後薄根ふるさと太鼓演奏が祭りの開始を告げた。校庭中央には大きなヤグラが組まれヤグライベントでは盆踊りやだんべえ踊り団体の発表や流し踊りがあった。マイムマイムや沼田音頭をヤグラを囲んで老いも若きも参加して踊り盛り上がっていた。またゲストの森久美子さん、小野里由紀子さんのショーも行われた。

小池会長は「国の天然記念物薄根の大桑を地区のシンボルとしてオール薄根で盛り上げ楽しいお祭りにしたい」とあいさつした。

週間利根　R元年8月25日掲載

8月17日、第2回目の薄根大クワ夏祭りが開催されました。今回から「オール薄根」で取組んでいただき、振興協議会の石井さんに実行委員長になっていただきました。昼間のイベントには元気会の皆さんが昨年に引き続きジャンボかるた大会を行い、グランドでは出店やビンゴゲームなどスタッフの皆さんが頑張っていただき、子どもたちは大はしゃぎでした。夜の部ではうすねニュースポーツクラブの皆さんのおかげで、盆踊りやダンスなど大盛況でした。今回のお祭りも子どもたちの夏の想い出になったと思います。今年もよろしくお願い致します。

地元知り郷土愛育んで
「薄根かるた」初の大会

沼田市薄根地区の名所や旧跡、祭りなどを詠んだ「薄根地区かるた」の大会が16日、同市白岩町のふれあい福祉センターで開かれ、園児から高齢者まで38人が熱戦を繰り広げた。

かるたは、住民有志でつくる「薄根元気会」（湯本博会長）が2017年に制作。大会は地元の魅力を発掘し、子どもたちに郷土愛を育んでもらおうと、初めて開いた。

参加者は9ブロックに分かれ、2人一組で絵札を取り合った＝写真。同会の湯本会長は「大会が定着し、末永くかるたが親しまれればうれしい」と話した。

沼田　上毛新聞　元年11月17日掲載

第1回薄根地区ふれあいかるた大会

この事業も薄根元気会の皆さんが薄根地区かるたの大会を企画し、初めてかるた大会を開催しました。開催場所はふれあいセンターをお借りし、当日は子どもたちや大人達、総勢38人が参加してくれました。子どもたちは薄根地区の歴史・文化を学ぶ事ができ、子どもも大人も真剣でした。今後この事業も継続的に行い、子どもたちの「ふるさと愛」につなげていきたいと思っています。

公約３　「ものづくりにこだわったまちづくり」

沼田市消防団とドローンの連携

沼田市消防団は、地域と連携し地域の防災力を高めるために活動を行っていただいています。また2年前には女性消防団ソレイユが結成され、昨年は群馬県代表として全国大会に出場しました。
沼田市で昨年導入された消防団専用のドローンを、火災時の鎮火後の見回りや人の捜索時等に有効的に活用していただき、消防団員の皆さんの負担軽減につなげていただくために、技能訓練を行いました。利根沼田テクノアカデミーではこの事業を継続的に行ってまいります。

週間利根　R元年3月3日掲載

沼田市消防団員、ソレイユ隊員
ドローン飛行技能訓練講習
火災・捜索等現場での活動に生かす

全国で集中豪雨や地震などによる甚大な被害が発生しているが、ドローン（無人航空機）を活用した操作救助活動が行われているが、沼田市消防団（関口元雄団長）はドローン技術を学ぼうと16日・17日と18・19日の２回、利根町の旧平川小学校に開設されているドローン技術訓練校で技能訓練講習会を開いた。各分団の希望者と女性消防隊ソレイユの吉野久子隊長と団員１名を含む30人が講義と実習を受けた。火災現場や災害現場で遠隔操作により上空から状況確認が出来素早い判断と行動が可能になり、さらおに行方不明者等捜索活動の利点になる。市では防災訓練で業者の空撮による災害現場確認捜索訓練を行っている。

今回訓練校を運営する利根町南郷の利根沼田テクノアカデミー（桑原敏彦校長）から訓練の支援の申し出があり実施に至った。

訓練は技術訓練校の技術指導員が講師を務めた。ドローンの概要や法律、飛行許可申請の取得などの座学が行われた。続いてドローンのセットアップ、操縦法やホバリング、８の字飛行や屋外での目視外飛行などの実習が行われた。飛行申請の際必要となる「操縦経験10時間」の認定を受け修了証を手にした。

関口団長は「団員が操縦できれば火災や捜索など消防団活動に有効」と、吉野隊長は「女性も捜索活動などに出られると思う」と話していた。

沼田防災士とドローンの連携

最近では、日本全国で多くの災害が発生し、沼田市においても3年前に柿平地区で土砂災害が起こるなど、千葉県においては多くの方が家を失い甚大な被害が発生しています。
今後、防災士の役割は一層重要となっていくと考えられます。そんな時、まず自分の身の安全を確保し、地域のリーダーとして活躍する際に、ドローンを活用していただければと考え、今回、防災士ドローン連携訓練を開催しました。

週間利根　R元年9月22日掲載

沼田防災士会でドローン飛行技能訓練
防災活動に活用して市民の安全確保

沼田防災士会（徳江司郎会長）は「ドローン飛行技能訓練」を９月21日、22日の二日間利根町のドローン技能訓練校（旧平川小学校）で実施した。

訓練は２回に分けて実施、今回７人、２回目は６人が参加した。

技能訓練は、講師の江間大輔さんが「防災士の活動におけるＵＡＶ活用の可能性」と題して講演。続いて同校体育館で飛行テストを体験した。

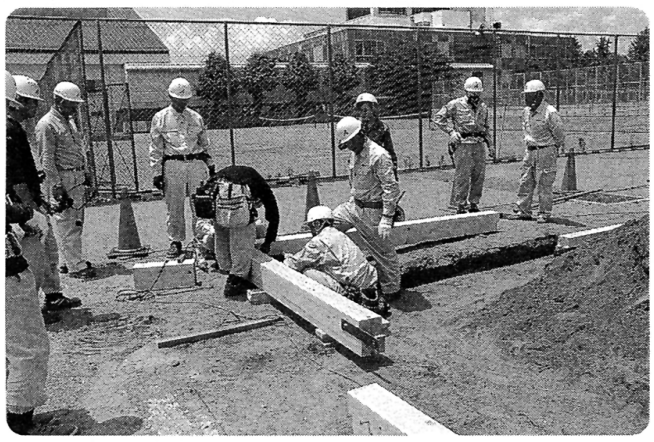
防災士は、消防団の役員経験者やＯＢ、消防署員などで構成している。

徳江会長は「ドローンの飛行技術を習得し、防災活動に活用して市民の安心安全に繋げたい」と話していた。

奉仕訓練（沼田中学校砂場改修）

利根沼田テクノアカデミーでは、昨年も教育現場での奉仕訓練を行いました。今回の訓練は大工訓練生と板金訓練生が合同で、沼田中学校の砂場の枠を交換する工事を行いました。現場での実測、アカデミー内での加工、そして現場での施工です。当日は失敗が許されない訓練であり、訓練生は緊張しながら作業を行いました。この取り組みはアカデミーでの 3 か月間の集大成であり、自社にもどって仕事を行うための「気構え」が身についたと思います。また、いつもお世話になっている日陰南郷地区のゴミステーションの修繕も同時に行いました。本年度も沼田市と連携し、奉仕訓練を継続していきます。

週間利根　R元年7月14日掲載



沼田中砂場など公共施設修繕
訓練生、緊張感ある訓練体験

利根町南郷の建設職人短期育成訓練校「利根沼田テクノアカデミー」（桑原敏彦校長）の第４期訓練生が６月26日、沼田中の砂場枠改修と南郷地区のごみステーション修繕の公共施設奉仕訓練を行った。

沼田中では板金と大工コースの訓練生９人が指導員の指示で、校庭の砂場の古くなった木枠を取り除き、自分たちが材料を仕入れ、学んでいる木組みを加工したヒノキ材に防腐剤を塗って組み合わせ金具で固定し完成させた。

奉仕訓練は、お世話になる沼田市の地域貢献の一環として修繕工事を行い訓練生の習得技術披露の場になる。

桑原校長は「アカデミーでの訓練と違い失敗が許されないことを自覚し緊張感のある訓練。７月から自社の会社に戻り現場での仕事が始まる。気構えが本気につながる」と話した。

尾瀬校ドローンプロジェクト

尾瀬高ドローンプロジェクト
ドローン免許取得研究に活用

利根町の尾瀬高校（清水堂校長）は今年度から始めたドローンプロジェクトで、自然環境科の生徒１～３年生９人は10月１日、利根沼田テクノアカデミーが運営するドローン技能訓練校（利根町・旧平川小学校）でドローン（小型無人航空機）の10時間フライト講習を初めて受けた。

テクノアカデミーの桑原敏彦校長が技能訓練の流れや資格、今後のドローンの可能性などについて説明。その後生徒は体育館でドローンのシュミレーションをみたり操縦法など訓練校の須田講師の説明を聞き、実際に操縦しホバリングや着陸などを体験した。技能訓練を10時間程度受講すると国土交通省に飛行許可申請ができるライセンスを取得できる。今後は実習と座学で法令などを学び月２回程度の受講で３年生は卒業までに免許が取れるという。

ドローンは目視の難しい場所や積雪期の調査など立ち入りできなかった場所の植生調査や地形調査などに活用するという。地形的には尾瀬のヤメ平や大清水、フィールドの武尊山等で活用する。

週間利根　R元年10月13日掲載

昨年尾瀬高校と協議をし、テクノアカデミードローン技能訓練校では、子どもたちが学校の授業が終わる夕方 4 時から 2 時間ずつ計 7 日間、9 人の生徒にドローン訓練を行いました。子どもたちはあっという間に操縦技術を身に着け、今月 20 日に最後の操縦試験を行います。尾瀬高校では尾瀬ヶ原の調査や、武尊山の調査を行っており、ドローンを活用すればその調査が更に向上すると思います。この取り組みは今後も継続的に続けていき、今後は環境調査を中心に、更にはドローンの可能性を子どもたちに見つけてほしいと考えています。

多能工の取組み

昨年利根沼田アカデミーでは、日新製鋼（鉄鋼メーカー）と連携し、多能工育成コースを立ち上げました。今回の取組みは全国のあらゆる建設業の職種で人材が不足している中、1業種が2業種以上の仕事を覚え、その技術を習得できれば人材不足を補う事ができます。その第一弾が内装業や、塗装業の方々が屋根工事に多能化していただく取組みです。今後もこの事業を定期的にテクノアカデミーで取組み、多能工化を進めていきます。

上毛新聞　R元年11月22日掲載

複数の作業 １人で
沼田 多能工化訓練を公開

公開された新しい屋根材を使った訓練

建設業界の担い手を育てる短期育成型技能訓練校「利根沼田テクノアカデミー」（桑原敏彦校長）は21日、１人で複数の異なる作業をこなせる多能工化を目指す訓練の見学会を沼田市利根町の同校で開いた。国や県、メーカーの担当者らが新たな工法や商品について理解を深めた。

同校は、従来より軽く施工性が高い屋根材を活用し、18日から「初級施工士認定コース」を実施している。見学会では、内装業や塗装業の職人７人が手際よく屋根材を設置する様子を公開した。

桑原校長は「新人を確保するだけでなく、今いる人の仕事の幅を広げないと業界が回らない」と危機感を募らせる。「今後、現場の数が減る中で、利益の向上や維持につながれば」と強調し、訓練のレベルを上げたり、回数を増やしたりして多能工化を拡大するという。

桑原としひこ後援会　沼田市町田町257　TEL.0278-23-0400 Fax.0278-25-3072
http://www.facebook.com/kuwabaratoshihiko